



月刊

グラフィックサービス

No.890
2026

1



■ 年頭企画

新春鼎談会 ジャグラコンパクト DX 総まとめ

適材適所か、ムチャ振りか? —「DXのDも分からない」から始まった挑戦—

副会長

原田大輔 × 岡本

会長

泰 × 岡

副会長

達也



■ 巻頭言

2026年 年頭所感

— 会長 / (株)クイックス (愛知) 岡本 泰

■ 寄稿

年頭所感

— 経済産業省 商務・サービスグループ 文化創造産業課 クリエイティブ産業室長 荻野 洋平
— 一般社団法人 日本印刷産業連合会 会長 暦 秀晴

■ 特別企画

2025年 ジャグラ全国協議会レポート

■ 連載

SPACE-21 広報部

**2026年、馬には乗ってみよ人には添うてみよ
サスティナ酒場**

一般社団法人

日本グラフィックサービス工業会



CONTENTS

■ 巻頭言

- 1 **2026年 年頭所感**
会長/ (株)クイックス (愛知) 岡本 泰

■ 寄稿

- 2 **年頭所感**
経済産業省 商務・サービスグループ 文化創造産業課 クリエイティブ産業室長 荻野 洋平
一般社団法人 日本印刷産業連合会 会長 磨 秀晴

■ 年頭企画 新春鼎談会 ジャグラコンパクトDX総まとめ

- 3 **適材適所か、ムチャ振りか?**
—「DXのDも分からない」から始まった挑戦—

■ 特別企画

- 23 **2025年 ジャグラ全国協議会レポート**

■ 連載

- SPACE-21 広報部
21 **2026年、馬には乗ってみよ人には添うてみよ**
27 **サステナ酒場**

■ NEWSとお知らせ

- 8 **ジャグラ作品展募集**
10 **2026年 誌上新春名刺交換会**
13 **JAGAT「page2026」開催概要を発表**

■ NEWSとお知らせ

- 7 愛知県支部 創立70周年記念式典・祝賀会を開催
20 ジャグラBBホットニュース
22 業界の動き
ジャグラ 九州地協 セミナー開催

- 19 雑学コラム⑦
29 事務局日誌と今後の予定

※ 2026年1月号の表紙は、岡本会長、原田副会長、岡副会長の写真を生成AIで加工して同じ角度から撮影したような画像となっています。

- 14 学校法人日本プリンティングアカデミー後援会
15 ホリゾン・ジャパン(株)
16 富士フイルムグラフィックソリューションズ(株)
17 (株)ショーワ
18 東京リスマチック(株)
19 (株)研美社
22 JaGra グループ保険
表4 リョービ MHI グラフィックテクノロジー(株)

月刊グラフィックサービス 発行趣意

月刊『グラフィックサービス』は、一般社団法人日本グラフィックサービス工業会会員、関係諸団体およびすべてのステークホルダーの皆様へ、自社の質的向上に役立ち、知恵と勇気を分かち合うことを目指し発行するものです。

本会の存在意義である人間交流スペースを構築し、社会の多様な要請にタイムリーに対応しつつ、共通の経営課題を持つ会員をネットワーク化し、その交流を積極的に支援するとともに小さいことでも有利となる経営施策も発信する情報ターミナルとなることを理想とします。

またその情報発信手段は誌面にとどまらず、環境に応じて多様な発信方法を検討、遂行することを責務とします。

【概要】

発行回数	月1回 / 年間12回	配布方法	・全会員へ直接郵送
購読料	ジャグラ会員は無償(会費に含む) ・希望企業、団体への有償配布		・ジャグラホームページからのダウンロード

本誌へのご意見・ご要望・記事提供は下記宛お寄せください

Eメール edit@jagra.or.jp 電話 **03-3667-2271** ファクス **03-3661-9006**

お手紙 東京都中央区日本橋小伝馬町7-16 〒103-0001 (一社)日本グラフィックサービス工業会 宛

2026年 年頭所感

会長 / (株)クイックス (愛知) 岡本 泰



ジャグリストの皆様、新年明けましておめでとうございます。昨年も全国の会員の皆様に変にお世話になりました。心より御礼申し上げます。

会長就任以来続けております支部訪問は、残すところ2か所(山梨県支部と奈良県支部)となりました。支部の皆様にはご迷惑になったかもと案じていますが、私自身は勉強になることばかりでした。本部の在り方についてお叱りやアドバイスを頂戴したり、支部の課題について現場の実情をご教示、対策について議論したり……と全国各地での印刷業界の現状を細かく理解し、意見交換することができました。また、印象的だったのは「恩送り」の精神です。「絆」の源泉ですね。先輩から最も感銘を受けたことの1つです!

会員の皆様は、特に創注と人材育成に大変苦慮されています。人口が減り、印刷市場が縮小していく中で売上を維持するだけでも大変です。何もしなければ衰退するのは明らかです。全国の会員の中で元気な会社は①自治体と協力しながら地域の活性化を図っている、②他社にはない印刷・加工技術がある(ブランド化)、③印刷ノウハウを活かしコンテンツ産業へ業態変革している、④M&A含め他社と資本提携して活力を取り入れている等を実践しています。

ジャグラの仲間にも成功している会社は多数ありますが、何故かそういった情報はあまり皆様に届いていません。月刊GSやジャグラBB

等でアナログとデジタルを活用し頻繁に発信していますので是非参考にしてください。必ずヒントは見つかります!

本年は大阪で全国大会が開催されます。毎年のことではありますが、担当地協の皆様には感謝しかありません。近畿地協のスタッフは余念なく順調に準備を進めていただいています。今回は役員改選期になりますので新体制がスタートします。

組織は継続することが最も大切です。DXツール開発や会員各社の好事例の共有、経営手法や最先端技術の情報発信、従業員向け教育コンテンツの配信等々時代の潮流を敏感に読み取り、しなやかに軽やかに進化していくことが重要です。一個人の力量でこれらを推進しては継続などできません。チームで実行できてこそ後継者が誕生し、繋ぎ繋いで歴史となります。

大阪大会は、ジャグラが進化していくことを実証し、正に印刷業界に対しこれからの業界団体の在り方を明示するセレモニーとなります。実行委員会を労いながら新体制のメンバーと共に更にパワーアップしてグラフィックサービス業への変革を推進していきましょう!本年もどうぞよろしくお願い致します!

年頭所感

経済産業省 商務・サービスグループ
文化創造産業課
クリエイティブ産業室長 荻野 洋平



（中略）本年の経済政策の最重要課題の一つとなるのは、物価高に負けない賃上げや、国内への成長投資が進む環境を作ることです。昨年の高市総理の所信表明演説においても、「更なる取引適正化等を通じ、賃上げと設備投資を強力に後押しします」との力強いメッセージが示されました。

他方、昨年9月の価格交渉月間の調査では、印刷業の価格交渉の実施状況の数字は、改善しているものの、他業種と比べて低くなっております。印刷業は、受注産業であり、サプライチェーンの頂点は、あらゆる分野の産業と言えます。経済産業省としては、今後とも業界の皆様と強く連携し、これまで以上に、価格交渉しやすい環境の醸成に向けて取り組んでまいりたいと考えておりますので、発注元となる他の業界に対しても、我々と連携しながら、取引適正化に向けた協力を呼びかけてまいりましょう。

さて、制作年が明確な現存世界最古の印刷物とされるのは、奈良時代の藤原仲麻呂の乱鎮定後に印刷された、「百万塔陀羅尼」です。称徳天皇の発願により官営事業で作られた、百万基ともされる小塔には、印刷により量産された「陀羅尼経」が収められました。日本の印刷文化は、その曙において発注元が「官」であったことは興味深く、文字・画像等情報の保存と伝達を役目とする印刷産業の歴史は、官公需とともにあったと言えます。

官公需の発注は、経済産業省も当事者となります。国、地方自治体においても適切な価格転嫁が行われるよう、経済産業省としても必要な対応に取り組んでまいります。

地方を中心に、価格転嫁はおろか、価格が下げ止まらないという声が聞かれます。この対策として、自治体における低入札価格調査制度や最低制限価格制度の導入が重要となってきますが、これらは各自治体において適切に予定価格が算出されて初めて機能します。過度な競争により実勢価格と乖離した予定価格の積算がされないよう、官公需に参加される事業者の皆様には、具体的な根拠に基づいた積算を行っていただき、適正な価格形成がされるよう、ご協力をお願いいたします。

物価上昇に負けない賃上げを起点として、国民の所得と経済全体の生産性向上を図るという成長戦略、その要が価格転嫁・取引適正化であり、サプライチェーンの隅々まで行き届くよう、皆様にはぜひリーダーシップを発揮していただきたい点、改めてお願いします。

年頭所感

一般社団法人 日本印刷産業連合会

会長 磨 秀晴



（中略）昨年日本経済は、好調なインバウンド需要や高水準の賃上げが景気を支える一方、物価上昇と人手不足が景気全体の回復を鈍らせました。

印刷産業においても、急激な労務費、原材料費、エネルギーコストの上昇が各企業に大きな影響を与えており、物価上昇分を確実に価格転嫁していくことが喫緊の経営課題となりました。

政府は、物価高に負けない賃上げと、国内への成長投資が進む環境を作ることを経済政策の最重要課題として、サプライチェーン全体での価格転嫁・取引適正化に徹底的に取り組むよう、すべての産業に要請しています。

また、本年1月1日より「下請法」が改正され、「中小受託取引適正化法（通称「取適法」）」として施行されました。中小受託事業者における賃上げの原資の確保と利益保護を目的として、中小受託取引の適用対象が拡大し、義務内容・禁止行為が厳格化されています。特に手形払いについては禁止となり、支払い期日の厳守が求められることとなりました。「取適法」および自主行動計画の遵守に向け、発注側・受注側ともに積極的に協議の場を設けていただくようお願いいたします。

一方で印刷産業は受注産業であり、サプライチェーンの頂点となる発注元への働きかけが欠かせません。日印産連は主要発注元の業界団体に対して、価格転嫁と商習慣の見直し等、取引適正化の協力要請に取り組んでまいり所存です。会員10団体並びに賛助会員の皆様のご協力をお願い申し上げます。

社会全体のDXやAI活用が進み、事業環境だけではなく、人々の生活までも大きく変わっていくなかで、我々印刷産業は長年培われた印刷技術を核に、時代の変化に対応した事業ポートフォリオ変革に取り組まなければなりません。「高付加価値コミュニケーションサービス産業」として社会に求められ続ける産業であるために、会員10団体が力を合わせサプライチェーン全体での取引適正化に取り組み、新たな価値創出、事業領域の拡大に向けた連携・共創を推進します。

日印産連は本年も、印刷産業の価値向上と持続可能な社会の実現に向けて、関係省庁、会員10団体、賛助会員、関係業界団体の皆様と共に様々な活動を行ってまいります。

新春鼎談会 ジャグラコンパクトDX総まとめ

適材適所か、ムチャ振りか？ —「DXのDも分からない」から始まった挑戦—

2022年からスタートしたジャグラコンパクトDX事業も間もなく4年の集大成を迎えます。ジャグラ会員の平均事業規模、従業員10名、売上1億円の企業を想定した、DXそして創注実現に向け、生産性向上委員会、MIS研究委員会、地域活性化委員会、業態進化委員会の4委員会を柱に情報収集と地に足の着いたツール開発に注力してきました。これまでに発表されたツールも2025年6月の正式リリース以降、少しずつ採用数が増えてきています。新年号の特別企画として、本事業を推進してきた岡本泰会長、原田大輔副会長、岡達也副会長の3名に、3年半の取り組みを振り返っていただきました。



田中：まず、このジャグラコンパクトDXが何故、始まったのかというところからお聞かせください。

岡本会長：そもそもの話として、もう3年以上前のことなので記憶も曖昧な部分もありますが、やはり時代の流れとして「DXをやらないといけない」というのが明確にありました。ジャグラでもこの流れにはついていかなければと。中村直前会長の時にワーキンググループからスタートしましたが、WGメンバーの中に、DXのDの字も分からないという人がいて、まずは「DXって何だ？」というところから議論がはじまって、やっぱり世の中で広く伝えられている大きなDXではなく、ジャグラ会員の平均従業員数10名、売上1億円の企業がはじめられる身近なDXをテーマに掲げていくことにしました。

田中：それが「ジャグラコンパクトDX」の“コンパクト”



の意味だったんですね。また、ITを導入してデジタル化していくのではなく、「X」（トランスフォーメーション）が重要だと当初から言われてました。

岡本：その通りです。単なるデジタル化ではなく、「会社の経営形態を、デジタルを活かしてどう変えていくのか」ということにフォーカスしました。そのために、まずは現状を正しく把握しなければならない。デジタルかアナログに関わらず、「単品損益」の勘定が間違っている状態では、正確な事実が掴めず、手が打てません。単品でどれくらい儲けが出ているのか、出ていないのか、もしくは会社の部門ごとに利益がどれくらい出ているのか、商品や顧客ごとにも正確な数値を掴んでいなければ創注もできません。だからこそ、すべてのスタート地点は「単品損益」の正確な把握にある、と考えました。



奇しくも印刷業界は縮小傾向にあり、どうしたら業界団体として、会員企業が「安定的に儲かる会社になるための方向性を示せるか」を考える時期にも来ていました。会費をいただいている以上、会員企業の存続に繋がる事業をやっていかなければならない。だから創注が一番の課題になってくると言っても経営資源は限られているわけですから、どこに集中していかなければならないのか、その判断基準もない状態では戦うこともできません。

その判断基準としてすべてのスタートは単品損益にあると私は思っています。まずはここをやるべきで、そうは言っても MIS について皆がみんな理解していたわけではないので、分かりやすい指標として、生産性向上がありました。当時、展示会などでメーカーさんたちもしきりに生産性向上を謳っていましたので、生産性向上と MIS が繋がって物差しが明確になれば、何をどのくらいという数値の把握と改善目標が立てられるようになるということで、この2つは早い段階で柱に据えていました。

4つの柱と委員長選任

田中：残りの2つ、「地域活性化」と「業態進化」はいかがでしたか？

岡本会長：全国を回って会員から意見を聞く中で、地域密着型の印刷会社が非常に多いことが分かったんです。なぜ印刷業が地域活性化なのか正直最初は分かりませんでした。皆さんの話を聞くと、商店街の活性化や障がい者支援、自治体との連携など、会員の半数以上が地元の名士として地域密着でやっています。ですから地域を活性化する手段として DX を活用するというのは、会員にとって分かりやすく、身近な話だと。これで3つが決まりました。

田中：そして4つ目が「業態進化」ですね。

岡本会長：そうです。これは DX である以上、最先端の技

術をどう取り込んでいくかという部分は外せません。やはり利益率を高めるためには DX が必要ですから、マーケティングオートメーション (MA) をはじめ新しい分野を、会員に対して分かりやすい形で発信してもらう業態進化を最後の柱に据えました。この4つの柱があればジャグラ会員の DX はすべて網羅できるだろうと WG の中で決まっていたと記憶しています。

しかし、正直な話、WG のリーダーをやっている時は自分が会長になるとは思ってなかったんですよ。で、会長に指名されるようになったので、DXWG の考えを機能させるには新しい委員会を設置する必要があると。その時初めて4委員会に決めたというのを覚えてます。なので先ほど話した通り、生産性向上と MIS、そして地域活性化の3つは重要な柱になるだろうと思っていて、そこに業態進化が入って、それぞれ独立した委員会とするというのは WG の時には想定していなかったんです。

人事配置に込めた意図

原田副会長：そう言えば、担当副会長を決める時に、生産性向上と MIS が原田で、地域活性化と業態進化が岡さんと言われて、会長に「逆じゃないの？」っていう話がありましたね。僕なんかは、WG にも参加していなかったののでいきなりこのタスクはしんどさしかなかったです (笑)

岡本会長：これは私の考え方ですが、組織図上、一番上の事業を担うのは次のジャグラを担う人であるべきだと。東京の会長になった原田さんが、ジャグラの事業のトップとなれば、何となく次を引き継ぐべきという風になるかと思っていました。

田中：それにしても WG メンバーの各担当パートと委員会はかなり入れ替えましたよね。稲満さんは生産性向上だったと聞いてますが、担当が違いましたよね。

岡本会長：WG メンバーの中で一番、単品損益を理解していたのが彼だったので、MIS には稲満さん (いなみつ) を指名し、岸さん (正文舎) のところを見て生産性向上を図ろうとしていた宮崎さん (ニシキコネクト) に生産性向上をお願いしました。

田中：ジャグラ 70 年の歴史を振り返っても、ここまで会長が具体的に指示して委員会を運営していったことはあまりないと思いますが。お二人ともいかがだったでしょうか？

原田副会長：僕はそもそも DX というキーワードが出てきた時、近頃、世の中に DX という言葉が溢れていたのて

マにするのは分かるけど……という感じでした。印刷業の業態と DX が全然頭の中で結び付いていない時期でした。確かに「DX = デジタル化」じゃないよねと。どの業種にも当てはまることだとは思いましたが、どう当てはまるのかが見えない状況で、私たち印刷業界に合う形でどのように DX 化を進めることができるのか不透明でした。

MIS で言うと、稲満さんが自社で単品損益管理をやっていて、印刷業は工数が多いため結果的に労務費が一体どうなっているのか分からなくなっているという話は出ていました。その工程管理の中で、単品損益がどうなのかというのを作っていくと聞いた時に、なるほどな、と腑に落ちました。

生産性向上に関しては、岸副委員長がすでに作ってきたものがありましたから、さすがにハイエンドですが、その手前側の部分でまずスタート地点は作れるんじゃないかという感触はあったと思いますね。

岡副会長：僕はどっちなやってと言われたら生産性向上と MIS がいいなと最初は思っていました。生産性向上は岸さんのモデルがあったし、MIS も稲満さんが居れば大丈夫だろうみたいな感じがあったので。

業態進化は最先端の取り組みなので、事業領域の拡張や校正回数を減らしたり、要は最先端のツールで非効率をなくして創注していくことはできるだろうと思ってました。一方で、地域活性化は本当に難しいと思いました。唯一のヒントがクイックスさんの健診アシストを使って別の市場を創出していくという希望だけ挙がってましたから。

議論を非常に自由闊達に進行させるプロの齋藤さん (文化ビジネスサービス) が委員長を務めてくれたので、活発な議論はできるだろうと思っていたんですが、じゃあどこに落とし込めるのか、本当に2年間で結果を出せるのか、結構ビビりながらやっていたというのが正直なところですよ。



やってできないことはないだろうと思ってはいましたが、地域活性化も業態進化も一つの到達点に来ました！というのが分からなかった。岡本会長は、地域活性化は何かアプリみたいなサービスを作るように指示

し、業態進化はジャグラ会員全体の1割でも理解できる人がいたらいいからと言ってくれたのが、まあ一つの救いでした。

原田副会長：本当に岡さんさすがだなと僕は思っていました。内容じゃなくて齋藤さんと中村さん (NS 印刷製本) の二人を僕はまとめきれないから (笑)

岡本会長：確かに原田さんが地域活性化と業態進化を担当していたら、二人は好き放題やっていたかもしれないね (笑) だから、生産性向上も MIS もある程度見えている部分もあったので、原田さんにはジャグラのコアになる部分として勉強してもらう意味でも適任だったと思います。

委員長指名については、事業を通じた「育成」の側面もありました。次の会長、そしてその次の会長がジャグラを背負って立ってもらうために、それを支える人財を育成していくことが私の一つの役割だと思っていたからです。

そうした意味で宮崎さんや稲満さん、齋藤さん、中村さんにはしっかりとした成果を上げてもらおうと考えました。特に齋藤さんは少しジャグラでも東グラでも異端児的扱いですが、彼の良いところはたくさんあって、それは次やその次の会長の時に必要な人財になるだろうと思っているんです。ただ、彼は新しいことに関して知識もネットワークも持ってますが、型にはめられるのをすごく嫌がる傾向にあったので、岡さんと組ませて、限られた範囲で能力を最大限に生かせるようお目付け役をお願いしました (笑) 組織論じゃなく、人物評になってしまいましたね。

ただ、人事に関しては、その人の性格と適材・適性や将来を考えた時に4委員会は非常にうまくいったと思います。上から目線な言い方に聞こえてしまうかもしれませんが、この間、本当に4委員会の委員長は成長したと思います。話が長い人も人へ上手にものを伝えられるようになったし。リーダーシップというか、ジャグラでちゃんとアウトプットを出していけるという成功体験を皆で共有できたんじゃないでしょうか。

田中：色々との間ありましたが、どんな苦労がありましたか？

原田副会長：MIS で当初、J SPIRITS さんの MIS の話があ

りましたが、別の委員から違う MIS の話が出て、会長が「あれは MIS じゃない！」と話していたので、委員会が絶対にそのキーワードを出さないようにしました（笑）

ただ、J SPIRITS さんの MIS も結果としてハイエンドでなかなかターゲットとする 10 人、1 億円規模の会社が導入できるくらいにダウングレードするのは難しいということもあり、結構、苦勞しました。結果的に、そもそも単品損益管理が出来ていない、アナログ伝票の管理でデジタルデータが無いというところに行き着きました。そこで数値化するためのスループット調査票の配布から始め、バーコードによる工程管理や Power BI のテンプレートを使った数値化を進め、単品損益管理の考え方を啓蒙するための教科書作りを行ってきました。

岡副会長：うちはまず業態進化の方では、マーケティングオートメーションの研究ですが、自分が学ぶだけだったら全く意味がないので、いかに会員に業態進化の事例を落とし込んでいくかにすごく苦勞しました。良かったと思うのはやはりジャグラ本部に Zoom の仕組みがあって、多分、一番全国向けのセミナーをやったんじゃないかな。

まあとにかく発信していこうということで、反応が良かったのは Canva でした。ただ Canva だけでは DX とは言えないので、直近 2 年間はデータドリブンマーケティングの実践から、いよいよマーケティングオートメーションに入りました。現在進行形で到達点が分からないところが不安ではありますが、とりえず中村委員長はじめ、委員の皆さんがよくやってくれているので何らかの形は残せるかと思います。

それよりも本当に苦勞したのが地域活性化でした。大規模ソフトウェアを外注してお金使ってるわけですよ。中

央会の補助金を取って、リコーさんに協力してもらって開発してきたけど、まあトラブルや行き違いがあとからあとから出てきた。次は皆に伝えなければとようやく最近、セミナーでジャグラコンパス―避難場所マップを皆さんに提供できるようになりました。

ソフトの完成度としては 60 点くらいかもしれませんが、使ってみたいとかお客さんに興味を持ってもらえるという話もできたのでとりえずこれは使えるかなという風になってきています。まあ、岡本会長の目論見通り、本当に齋藤委員長は方向性を示せば凄い力を発揮するんで助かりました（笑）

田中：委員会全体の活性化にも寄与しましたね。

原田副会長：DX の 4 委員会が毎月 1 回と言っていたら、ほかの委員会もほぼ月 1 回委員会を開いて議論するようになりました。コロナ禍でオンライン（Zoom）の活用が進んでいたのが幸いし、移動時間なく集まれたのは大きかったと思います。

田中：では最後に、会長から見て、現時点でのこのジャグラコンパクト DX 事業の満足度はいかがでしょうか。

岡本会長：80 点ぐらいですかね。特に委員長たちがこの 3 年間で目覚ましく成長してくれたのが一番の収穫です。MA のようにまだ道筋が見えない課題もありますが、一歩ずつ確実に進んでいる。これは、関係者全員の努力の賜物だと感じています。会員の皆さんには今、ジャグラから提供している各種ツールをうまく活用して創注につなげてもらえればと思いますし、ジャグラとしてコンパクトな DX ツールの追求は今後も推進して欲しいですね。



愛知県支部 創立70周年記念式典・祝賀会を開催

支部は、今年 70 周年を迎え「グラフィックサービスの挑戦」「はじめよう ジャグラ 愛知」をコンセプトに掲げ 11 月 1 日（土）に名古屋市中区のアイリス愛知で記念式典および記念祝賀会を開催。会員をはじめ、物故者会員遺族、地元自治体などから約 100 人が出席し 70 年の節目を祝福。会員スタッフの総力結集により終えることができた。

記念式典は、物故会員追悼式、式典、パネルディスカッションの 3 部構成で、この順に進行。物故会員追悼式では、はじめに、直近 10 年間に逝去した会員 5 氏の冥福を祈り安藤実行委員長の発声で黙祷。佐賀支部長が、物故会員に哀悼の意を表したのに続き、都築相談役が追悼の言葉をささげ、遺族並びに岡本会長が献花を行った。続いてブラザー印刷株式会社の岡田光司氏による遺族代表挨拶が行われ閉会となった。

続く式典では、冒頭、佐賀支部長が挨拶を行った。

来賓祝辞では、柳原和男中部経済産業局産業部長、大村秀章愛知県知事（代読：古澤秀雄愛知県経済産業局技監）、広沢一郎名古屋市長（代読：田川哲哉名古屋市長局産業労働部産業企画課課長）が 70 周年の節目を称えられ、さらなる発展を祈念された。

引き続き表彰に移り、組合功労者表彰では、中部経済産業局長表彰を神山明彦（株式会社カミヤマ）、岡戸裕明（中京プリント株式会社）の 2 名が受賞。愛知県知事表彰を佐賀信仁（興栄印刷株式会社）、鈴置誠（鈴置印刷株式会社）、岡田光司（ブラザー印刷株式会社）、近藤淳一（若葉印刷有限公司）の 4 名が受賞。永年勤続優良従業員表彰では、根本志穂（株式会社カミヤマ）ら 33 人が県知事表彰を受けた。

愛知県支部長表彰は、安藤隆弘（有限会社三星印刷）、岡本泰（株式会社クイックス）、清水幹友（株式会社ユニックス）、園田大造（株式会社大宝印刷）、伊藤有哉（株式会社大日本ビジネスフォーム）の 5 名が受賞。

また支部のこの 10 年間で舵取りを進めてきた、第 18 代支部長の神山明彦と第 19 代支部長の鈴置誠に佐賀支部長より感謝状を贈呈した。

そして 70 周年記念事業の一つとして行ったのが、名古屋市立工芸高等学校グラフィックアーツ科の生徒さんの前期課題研究にジャグラ愛知として後援させていただき、優秀な作品に対して表彰を行った。表彰はジャグラ愛知をはじめとして、協賛会社に協力を頂き 9 つの賞を用意した。受賞した生徒さんにお越しいたごき表彰した。

最後に、神山常任相談役の発声で万歳を三唱、式典を終えた。

休憩をはさみ 70 周年パネルディスカッションを開催した。ファシリテーターに株式会社正文舎の岸昌洋氏、パネラーに株式会社アイ・クリエイトの五十嵐友和氏、清水印刷株式会社の清水雅司氏、株式会社ジオンの今井克氏をお呼びして催された。冒頭サプライズで岡本全国会長が登場者 4 名の紹介をおこない場を盛り上げた。そのかいがあって、終始なごやかに進行。テーマは「業態変革について」で、パネラーの方々は現在進行中にもかかわらず、今回のパネルディスカッションでは赤裸々に自社の現状を語っていた。最後に佐賀支部長より謝辞を送られた。

記念祝賀会では、オープニングムービーがスライド放映されジャグラ愛知の歴史を出席された方々に紹介された。

祝賀会は佐賀支部長からの挨拶ではじまり、来賓の岡本本部会長、愛知県印刷工業組合前理事長の鳥原久資氏の祝辞を頂いた。特に岡本会長からはこれからの印刷業界の厳しい現状を熱く語っていただいた。

乾杯は、大阪府支部の小幡支部長で、来年のジャグラ全国大会は大阪での開催なので大阪大会のことも宣伝。

その後は、思い出話や業界の展望、情報交換などで大いに盛り上がった。

安藤実行委員長からのお礼の言葉があり、最後は浅野相談役による締めで会が閉会した。



物故者追悼式

主催者挨拶を述べる
佐賀支部長

主催者挨拶を述べる
安藤実行委員長

パネルディスカッション

ファシリテーター
岸昌洋氏

祝賀会



ジャグラ作品展募集は

2025年 12月1日から 2026年 3月31日まで!

【作品は 2025 年に作られたものに限ります】 Apply now!

～ 令和6年度 大臣賞受賞作品 ～



出版部門 経済産業大臣賞
『目で見える馬術』
オリンピア印刷(株)／大阪府支部



宣伝部門 経済産業大臣賞
『ブラックライトカクテルメニュー』
長瀬印刷(株)／福島県支部



業務用印刷物部門 厚生労働大臣賞
『年賀状が、ヘビをテーマにしたカードゲーム!?'
(株)ガリバー／神奈川県支部



開発・開拓部門 厚生労働大臣賞
『ハガミさん』
(株)クリエイト横浜／神奈川県支部

開催要項

〈審査対象〉

作品は 2025 年中に完成したものに限ります
(2025 年 1 月 1 日～12 月 31 日までの作品)

〈審査方法〉

全三回の審査会にて審査基準に基づき採点し、
順位を決定

〈応募方法〉

- ・応募作品に申込書を添えて、本部までご送付ください
- ・申込書はジャグラHPよりダウンロードできます
- ・原則、作品の返却は行っていない

「ジャグラ作品展」とは

グラフィックサービス業の技術力向上や
マーケットへのアピールを目的とするもので
ジャグラの前身である日本軽印刷工業会が
社団法人を設立した 1966 年より
開催されている歴史あるコンクールです。

過去の受賞作品はこちら→



ジャグラ作品展出品申込書

No.

事務局記入欄

申込日 年 月 日

会 社 名		担 当 者	
住 所		支 部	
E-mail		電話 / FAX	

☐ 発注者に出品の了解を得て、または受賞後了承を得る予定の作品、かつ著作権を侵害したものではありません。

チェックをお願いします

事務局キリトリ線

作 品 名

(記入必須)

No.

事務局記入欄

希望する部門にチェックしてください (希望にそえない場合もあります)



出 版 部 門

いわゆる出版物と言われるもの

単行本、文芸書、文集、記念誌、教科書、学術参考書、専門書、法規集、写真集、雑誌、ハンドブック、自費出版、復刻版など



宣 伝 部 門

宣伝的要素の強い印刷物で、主としてカラー印刷物や凝った印刷物、デジタルコンテンツ

カタログ、ポスター、ダイレクトメール、リーフレット、チラシ、POP、パンフレット、カレンダー、PR 誌、各種案内書、HP など



業務用印刷物部門

本業界が主流としてきた印刷物。また、商業印刷物のうち、モノクロ印刷物も含む

研究報告書、機関誌、便覧、手引書、会議資料、大会等資料、会報、年報、パーソナルユース(年賀状、レターヘッド、ハガキ、名刺)など



開 発 ・ 開 拓 部 門

顧客からの受注製造ではなく、自社で開発した商材・サービス

自社開発のコンテンツ、アプリ、デジタルコンテンツ、販促グッズ、独自提案ツール、独自加工技術など

特に評価して欲しい項目にチェックしてください (複数選択可能)

☐ 企画・編集への参画

製作物の企画構成・取材・執筆・編集・
校正などへの参画

☐ 設計・提案

表紙・本文のデザイン・書体・用紙・
加工、素材等の提案

☐ 文字組版

難易度が高い・禁則ルール等

☐ 完成度

印刷や造本、製作物の仕上がり

☐ 後加工・付加価値

特殊加工・特殊印刷等

☐ 開発・開拓

新商品開発・新規開発手法・開拓の視点・狙い等

☐ 顧客開拓、創注

企画提案から顧客開拓、創注に
結びついた

☐ 課題解決

お客様の課題解決に結びついた

☐ マーケティング・効果測定

マーケティング・効果測定・デジタル技術の活用

☐ 社会性

CSR・SDGs・持続可能な社会貢献等

☐ その他 ()

■ アピールポイント (自由にご記入下さい) 【任意】



新年おめでとうございます 誌上新春名刺交換会



JaGra 2026 第61回定時総会
第68回ジャグラ文化典式典

OSAKA

未来を創ろう 大阪大会
観智の台所～なにわの地にて

6/20 Sat
会場：リーニガロイヤルホテル大阪
OGS 大阪府グラフィックサービス
協同組合理事長 小幡利之
ジャグラ文化典式典大会実行委員長 本原 庸裕



新年おめでとうございます 誌上新春名刺交換会



KWIX コミュニケーション・テクノロジー追求により、
顧客ビジネスの発展に貢献する

Info. + Design

「情報」と「デザイン」の融合により、最適なメディアの選定から
効果測定まで、お客様の真のビジネスパートナーを目指します。

販促支援サービス マニュアルサービス 教育機関支援サービス P&Dサービス

株式会社 **クイックス** <http://www.kwix.co.jp>

■本 社
〒448-0025 愛知県刈谷市幸町2-2 TEL 0566-24-5511 FAX 0566-26-0200
代表取締役社長 岡本 泰

株式会社 **グッドクロス**

代表取締役
原田 大輔

〒141-0001
東京都品川区西五反田8の2の2
TEL 03 (6420) 2008
FAX 03 (6420) 2008
喜助西五反田ビル2F

株式会社 **カミヤマ**

代表取締役
神山 明彦

〒451-0042
名古屋市中区西区古野1の11の14
TEL 052 (565) 1118
FAX 052 (565) 1054

株式会社 **松栄印刷所**

代表取締役社長
森 孝

〒790-0003
愛媛県松山市三番町七丁目9の2
TEL 089 (944) 3333
FAX 089 (933) 7914

ジャグラ大阪府支部
大阪府グラフィックサービス協同組合

支部長
小幡 利之

会員一同

〒541-0048
大阪市中央区瓦町1の6の10
TEL 06 (6627) 8512
FAX 06 (6627) 8522

ジャグラ副会長
東北地方協議会 会長
山形県支部長

後 藤 卓 也

〒990-0051 山形県山形市銅町1の1の5 中央印刷(株)内
TEL 023 (631) 5533 FAX 023 (631) 5535
メール goto@chuo-printing.co.jp

ジャグラ中国地方協議会

会長
山本 康彦

会員一同

〒745-0043
山口県周南市都町3の1
TEL 083 (333) 1125
FAX 083 (333) 1125

ジャグラ北海道支部

支部長
渡辺 辰美

〒070-1003
旭川市3条通4丁目右1号
TEL 016 661223
FAX 016 661239

JaGra
岩手県支部

副支部長
(全国理事)

戸来 一裕
Kazuhiro Herai

株式会社 **興版社**
〒020-0816 岩手県盛岡市中野1-4-14
TEL 019-624-3456 FAX 019-625-3456

ジャグラ新潟県支部

支部長
平田 大輔

会員一同

〒950-0084
新潟市中央区明石1の7の20
TEL 025 (247) 3245
FAX 025 (247) 8491

ジャグラ栃木県支部

支部長
高橋 亮太

〒321-1421
栃木県日光市所野1122の183
TEL 028 (54) 1223
FAX 028 (54) 1241

ジャグラ茨城県支部

会員一同

〒310-0853
水戸市平須町1822122
TEL 029 (555) 5555
FAX 029 (555) 5553

ジャグラ千葉県支部

支部長
鎌田 俊郎

副会長
尾形 文貴

〒261-0002
千葉市美浜区新港213の5
TEL 043 (242) 4849
FAX 043 (245) 7233

東京グラフィックス 港支部

支部長
稲満 信祐

〒108-0075
東京都港区港南21-6-1
TEL 03 (6006) 4200
品川 East One Tower 7F

ジャグラ愛知県支部

支部長
佐賀 信仁

会員一同

〒462-0006
名古屋市中区西区賀町5の9
TEL 052 (915) 9995
FAX 052 (915) 9996

ジャグラ神奈川県支部

支部長
櫻井 薫

〒220-0025
横浜市中区高砂町330
TEL 045 (662) 1552
FAX 045 (662) 1553

Towa
紙以外の印刷にチャレンジ!

<http://www.towap.co.jp>

山梨の雄飛
有限会社 **東和プリント社**

事務所工場 山梨県甲府市住吉2-6-16
Tel.055-253-9293
本社ショップ 山梨県甲府市朝日2-7-10
Tel.055-234-5181
E-Mail info@towap.co.jp

株式会社 **東京技術協会**

代表取締役社長
鈴木 将人

〒104-0061
東京都中央区銀座一丁目八番六
電話 アスタールビル4F
FAX 〇三(三三二八) 六七四一
〇三(三五二八) 六七四五

NS PRINT & POSTPRESS
DESIGN からでも 印刷 からでも もちろん製本も

謹賀新年

令和5年2月
菊全判対応 UV 印刷機
(4色片面・2色両面兼用機)
導入

NS印刷製本株式会社 代表取締役会長 中村 耀盟
代表取締役社長 中村 中村

〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町568
TEL 03-3203-5421 FAX 03-5273-0527
URL <http://www.ns-p.co.jp>

共立速記印刷株式会社

代表取締役会長 吉岡 新
代表取締役社長 笹井 靖夫

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋3-11-24
PHONE.03-3234-5511(代) FAX.03-3263-2740
<http://www.ksi21.com>

株式会社 **谷印刷**

代表取締役会長
代表取締役専務
黒澤 康憲
黒澤 武志

〒921-8022
石川県金沢市中村町2番14号
TEL 076 (242) 7267
FAX 076 (247) 5181

株式会社 **大光社**

代表取締役
谷川 聡

〒606-0864
京都市左京区下鴨高木町39の1
TEL 075 (707) 1333
FAX 075 (706) 8000

株式会社 **ウイング**

代表取締役社長
松下 忠

〒640-8411
和歌山県和歌山市堀取17の2
TEL 073 (453) 5700
FAX 073 (453) 5520

i-Media
アイメディア株式会社

取締役 会長
本村 一和

代表取締役
本村 豪経

人と人、心と心・・・
新しいコミュニケーションを創造します。

〒815-0042 福岡市南区若久4丁目2-18
TEL(092)408-4351 : FAX(092)408-4352
Mail : info@i-media.co.jp



新年おめでとうございます 誌上新春名刺交換会



創るから造る
そして作る

株式会社 イデアル

代表取締役社長 佐藤 元

〒553-0002 大阪市福島区鷺洲5-5-5
tel.(06)6453-3334 fax.(06)6453-1231
URL: <https://www.idealpan.co.jp>

企画・印刷・製本・グッズ製作
株式会社 **緑陽社**

代表取締役 武川 優

〒183-0033 東京都府中市分梅町3-58-1
TEL 042-(351)1900
FAX 042-(351)1901
E-mail takekawa@ryokuyou.co.jp

有限会社 ドウ・プラン

代表取締役 笹岡 誠

〒247-0063 神奈川県鎌倉市梶原3-23-3
TEL 0467-(81)4757

西谷印刷株式会社

代表取締役 西谷 毅

あけまして
おめでとうございます

☎03-3630-2007

WEBサイトリニューアル!

株式会社 松谷メールサービス

代表取締役 松谷 勝広

〒134-0082 東京都江戸川区宇喜田町1-4000の5
TEL 03-(560)5011
FAX 03-(560)5010

株式会社 中島プリント商会

代表取締役 中島 博

〒371-0024 前橋市表町二丁目6番5号
TEL 027-(221)4348
FAX 027-(221)4349

株式会社 さくら印刷

代表取締役 鎌田 俊郎

〒297-0035 千葉県茂原市下本郷9-1
TEL 0475-(24)8800
FAX 0475-(24)8803

株式会社 北斗プリント社

代表取締役 西川 大祐

〒606-8540 京都市左京区下鴨場木町360の2
TEL 075-(791)7290
FAX 075-(791)6125

(株)ニシキコネクト

代表取締役 宮崎 真

〒730-0833 広島市西区南三軒上7の5の33
TEL 082-(277)6953
FAX 082-(277)6954

有限会社 小池印刷

代表取締役 伊藤 文雄

〒380-0936 長野市中御所3
TEL 026-(222)6219
FAX 026-(222)6284

有限会社 中溝グラフィック

代表取締役 岡澤 誠

〒210-0846 川崎市川崎区小田五-1-7
TEL 044-(333)2711
FAX 044-(333)2717

株式会社 クリエイティブ

代表取締役社長 森 宗明

〒874-0022 大分県別府市亀川東町4-20
TEL (0977)66-3676 FAX (0977)27-6088

ホリゾン・ジャパン株式会社

代表取締役社長 宮崎 進

〒101-0001 千代田区東神田2-4-5
TEL 03-(366)5361
FAX 03-(366)5360

FUJIFILM
Value from Innovation

代表取締役社長 山田 周一郎

本社 〒106-0031 東京都港区西麻布二丁目26番地30号
富士フイルム西麻布ビル
03(6419)0300

ホームページ <https://www.fujifilm.com/jp/gs/ja>

株式会社 モリサワ

代表取締役社長 森澤 彰彦

〒556-1011 大阪府浪速区敷津東二-1-15
電話 〇六-六六四九-二二五

SCREEN

代表取締役社長 有賀 賢一
Kenichi Aruga

株式会社 **SCREEN GP** ジャパン

〒135-0044 東京都江東区越中島一丁目1-1
ヤマタネ深川1号館
TEL 03-5621-8266
FAX 03-5621-8378
www.screen.co.jp/ga

JAGAT

「page2026」開催概要を発表

～ テーマは「Re:Connect ～再びつなぐ、印刷のチカラ。」～

公益社団法人日本印刷技術協会(JAGAT、網野勝彦会長)は、2025年12月10日(水)に記者発表会を開催し、2026年2月に開催する印刷メディアビジネスの総合イベント「page2026」の実施概要を発表した。

1988年の開始から39回目を迎える今回のテーマは、「Re:Connect 再びつなぐ、印刷のチカラ。」。印刷会社自身がAIの力を身につけ、他産業や多様な力と「再びつながる(Re:Connect)」ことで課題解決を図る重要性を訴求する。

■ オンラインカンファレンス・セミナーを倍増

2月18日(水)からのリアル展示会に先立ち、2月5日(木)から13日(金)にかけてオンラインカンファレンス・セミナーを実施する。セッション数は前回から倍増の24本で、全編ライブ配信形式で行われる。主なテーマには「生成AI活用(デザイン・業務・リスク管理)」「組織変革」「営業力強化」などが挙げられ、時流に即したプログラム編成となっている。

■ 展示小間数は前回実績増、新企画ゾーンも展開

リアル展示会は2026年2月18日(水)から20日(金)まで、東京・池袋のサンシャインシティ展示ホールB・C・Dにて開催される。

12月10日(水)時点での出展申込状況は493小間となり、前回(page2025)の実績である480小間を上回る規模となった。来場者は3日間で25,000人を見込んでいる。

今回のpage展の特徴として、紙以外印刷ゾーン、自動化ゾーンを新設。紙以外印刷ゾーンでは、Tシャツやグッズなど、紙媒体以外へのビジネス展開を提案する(ホールD)。

自動化ゾーンでは、人手不足解消を目的とした省人化・無人化技術を紹介する。このほか、昨年に続き、工場ソリューションゾーンで環境改善や生産性向上に関する課題解決を提案する(ホールB)。

なお、今回ジャグらは、ホールC・C-2に出展する。

また、会期初日の2月18日(水)13時から、会場内特設ステージにて基調講演「AI時代の印刷ビジネス 再考(完結編)」が行われる。事前登録およびセミナー申込は、公式ホームページから受け付けている。

page2026 開催概要

page2026

Re:Connect ～再びつなぐ、印刷のチカラ。

会期日時、会場

(1) 基調講演【リアル開催】

2月18日(水) 13:00～14:30
サンシャインシティ文化会館4F
展示ホールB 特設セミナー会場

page2026のテーマ「Re:Connect ～再びつなぐ、印刷のチカラ。」を議論し提言するセッションとして、2026年2月18日に基調講演を展示会(サンシャインシティ文化会館4F展示ホールB 特設セミナー会場)会場内でリアル開催します。詳細は、特設ウェブサイトをご覧ください。なお、基調講演の参加費は無料となります。

(2) カンファレンス・セミナー【オンライン】

2月5日(木)～2月13日(金)
10:00～11:30 / 12:30～14:00
14:30～16:00 / 16:30～18:00

カンファレンス・セミナーは、2026年2月5日から13日までオンラインで合計24セッションをライブ配信します。受講申し込みは12月22日より受付中です。詳しくは特設ウェブサイトよりお進みください。

(3) page2026 展示会

2月18日(水)～20日(金) 10:00～17:00
サンシャインシティ文化会館4F / 3F / 2F
展示ホールB / C / D

展示会は2026年2月18日から20日までの3日間、サンシャインシティにて開催します。入場料1,000円(税込)が無料となる来場者登録の事前受付は12月22日より受付中です。



・特設ウェブサイト:

<https://page.jagat.or.jp/>

【page2026 展示会に関するお問い合わせ】

〒166-8539 東京都杉並区和田1-29-11
公益社団法人日本印刷技術協会 page事務局
TEL 03-3384-3112 FAX 03-3384-3116

人財育成への支援を通じて

会長

浅野 健

(株)金羊社
取締役会長

副会長

作道 孝行

作道印刷(株)
代表取締役

副会長

岡本 泰

(株)クイックス
代表取締役社長

業 界 の 「 未 来 」 を 創 る 。

日本プリンティングアカデミー後援会

会員募集中

50^{会員}
突破!

当後援会は、次世代を担う印刷関連産業人の「教育」と「成長」の支援を目的とした会です。私たちは、印刷業界に特化した教育機関である JPA への支援を通して、印刷業界で活躍できる次世代の人財育成をサポートしています。また、本会が会員同士の新たなビジネスネットワークの構築・ビジネスモデルの創出のきっかけになればとも考えております。

印刷業界の「未来」を創る＝人財育成の支援のために、ぜひ本会にご入会いただけますようお願い申し上げます。

年会費

法人会員 30,000 円
個人会員 10,000 円

入会特典

JPA 主催セミナーの割引
JPA が主催する社員向けのセミナーが、特別価格でご利用いただけます。
新入社員～管理職者向けまで企業の人財育成戦略に合わせた各種研修が受講できます。
※詳細についてはお問い合わせください。

入会方法

右の QR コードを読み取っていただき、入会申込フォームに必要事項を入力の上、お申込みください。申込が確認でき次第、事務局よりご連絡いたします。

お問い合わせ

電 話 03-3811-2734 後援会事務局 中村まで 平日 9:00 ～ 17:30

メー ル koenkai@jpa.ac.jp ※件名に「JPA 後援会」とご記入ください。



日本プリンティングアカデミーとは？

1978 年に、共同印刷株式会社をはじめとする業界関連企業からの支援で創立された、東京都認可の専門学校・Off-JT 教育機関です。創立より、「印刷業界の事業革新と社会的価値向上に貢献できる人財を育成する」を教育理念に掲げ、これまで約 1,000 名以上の卒業生を輩出しています。また、Off-JT 教育機関として年間 200 名を超える社員の研修も行っています。

印刷業界の人財育成なら当校にお任せください

専門学校

「今」の印刷業界で働くために必要な知識・技術を総合的に学べます。

- プリント・コンテンツ学科（1 年制）
- メディア・コンテンツ学科（2 年制）

企業研修

実機を使いながら学べる業界特化型研修で、企業が抱える人財育成における課題を解決します。

- ベーシック研修
- カスタマイズ研修
- 業務別講座



入学者 & 受講企業募集中



学校法人 日本プリンティングアカデミー

〒112-0002 東京都文京区小石川 4-13-2 平日 9 時 00 分～17 時 30 分

電話 03-3811-2734

メール info@jpa.ac.jp

FAX 03-3811-3557

印刷 専門学校



Horizon

Change the focus

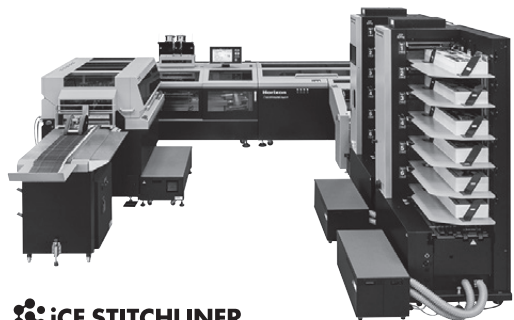
Connected をキーワードに製本工程の自動化を実現します。

iCE Series は、お客様へさらなる高付加価値を提供することを目指した次世代型商品群です。ユーザーフレンドリーなインターフェースで作業性を向上させ、安定した生産性と自動化を高次元で追求しています。さらに、ワークフローシステム「iCE LiNK」との連携により、先進的な作業環境を構築できます。

ペラ丁合鞍掛け中綴じ製本システム iCE STITCHLINER Mark IV

自動化と製本品質の向上を追求

多品種少量生産に対応するために、全自動化することでセット替えの時間を極限まで短縮しました。筋入れ機構や突き揃え機構、折り部、針金の長さ調整、断裁前の位置調整など、各工程における高精度な調整と加工技術で高品質な製本を実現します。



iCE STITCHLINER

無線綴じ機 iCE BINDER BQ-300

使いやすく進化した無線綴じ製本機

新世代 15 インチパネル HorizonXUI (ホリゾンクロスユーアイ) 初搭載。製本のノウハウと自動化技術を融合し、オペレーターの経験や能力に頼ることなく簡単に製本作業を行うことができます。



iCE BINDER

紙折機 iCE FOLDER AFV-566FKT / AFV-564FKT

生産性と折り品質が向上

ナイフ折り時の最適な給紙間隔をリアルタイムに計測演算し、最高の処理速度を引き出すなど、ナイフストッパーの脱着作業を含めた様々な設定を自動化し、幅広いアプリケーションに迅速に対応します。



iCE FOLDER

三方断裁機 iCE TRIMMER HT-300

高生産性と自動化を追求

一枚の断裁刃で天地、小口の三辺を断裁します。断裁前と断裁後の寸法をタッチパネルに入力することで設定が完了し、最高 300 サイクル / 時で高生産性を実現します。冊子厚さの自動測定や、断裁角度の微調整など、自動調整機能により、精度の高い仕上がりを実現します。



iCE TRIMMER

fb.me/Horizon.sns

ホリゾン・ジャパン株式会社 www.horizon.co.jp

本 社	〒101-0031 東京都千代田区東神田2-4-5 東神田堀商ビル5F	TEL.03-3863-5361(代)	FAX.03-3863-5360
東 京 支 社	〒132-8562 東京都江戸川区松江5丁目10-9	TEL.03-3652-7631(代)	FAX.03-3652-8083
京 都 支 社	〒601-8206 京都府京都市南区久世大数町510	TEL.075-933-3060(代)	FAX.075-933-4025
福 岡 営 業 所	〒813-0034 福岡県福岡市東区多の津4-12-17	TEL.092-626-8111(代)	FAX.092-626-8112
仙台サービスセンター	〒984-0002 宮城県仙台市若林区卸町東1-7-31	TEL.022-782-2821(代)	FAX.022-782-3068



さまざまな現場課題、経営課題を、どう解決するか。
これから進むべき方向性を、どう見極めるか。
その答えは、一つとは限りません。だからこそ、
信頼できるパートナーと共に、ベストな道を選び
たいもの。FFGSは、広範なネットワークを
活かした実践的な情報と、一社一社の戦略や
課題に合った効果的なソリューションで、
お客さまの「最良の選択」をサポートします。
そして、長年培ってきた知見と技術力を
活かし、変革の一步一步をしっかりと支え、
新たな未来へ向け、共に前進していきます。

お客さまの
「踏み出す力」になる。
価値ある情報、豊富な知見、確かな技術で。

一緒に答えを導き出す会社へ。

FUJIFILM
Value from Innovation

富士フイルムグラフィックソリューションズ株式会社



SHOWA

ユーザーサポートこそ商品

株式会社ショーワは、謄写版および付属品の販売と謄写印刷業の＜昭和謄写堂＞として、昭和3年に幅弓之助が創業しました。
創業者の幅弓之助は「良いものを売り、売ったものには責任を持つ事」に頑固なまでにこだわり続け、そのこだわりは創業から100年に向けて今なおショーワの社員一人一人にDNAとして脈々と受け継がれています。

長きに渡り、多くの取引先企業様より厚い信頼を寄せて頂けるのも、企業理念にもあります様にユーザーサポートという目に見えない、形のない「商品」だからこそ、付加価値を創造し続け、溢れる情報、市場状況を正確に分析・判断しうる知識とユーザーサイドで常に物事を考える「誠意」が評価して頂けているものと考えています。

今後も常に「ユーザーサポートこそ商品」の企業理念、創業者・幅弓之助の熱い志を胸に社員一同業務につとめていく所存です。

21世紀のグラフィックアーツを共に考えるショーワユーザー会

コラボレーション＆リサーチ ユーザー会で密に情報交換

SHOWA会

年間活動

○研修会 ○工場見学 ○総会・幹事会
○会報・メールマガジンの発行 ○有志グループ活動

問い合わせ、入会お申込みは事務局まで
SHOWA会事務局 TEL.03-3263-6141 FAX.03-3263-6149



株式会社

プリントメディアの総合商社

<http://www.showa-corp.jp/>

〒101-0065 東京都千代田区西神田 2丁目7番8号 TEL 03-3263-6141 (代) FAX 03-3263-6149

TOKYO QUALITY.

すべてのSPコミュニケーションに最良の品質を。



東京リスマチック株式会社

なんでも相談窓口

プリントデスク ☎ 0120-269-132

平日(月～金) 9:00～17:00 E-mail: support@lithmatic.co.jp



Lithmatic
http://www.lithmatic.net



雑学コラム③⑦ 野口聡の

47都道府県のお話(その35:青森県)

ジャグラ会報をご覧の皆様、こん〇〇は。ジャグラ東京・東
グラ文京支部のアクティブ・野口です。

明けましておめでとうございます。2026年も宜しくお願い
致します。

さて、今回取り上げるのは青森県です。先頃三陸・北海道で
大きな地震が起きました。現地の方々には大変な状況かと思いま
す。

普段の生活が早く戻るように願っております。そしてこんな
駄文ですが少しの間お付き合い頂ければ。

今回は青森県の市のお話を2つ書いていこうかと思います。

1:日本最初のひらがなの市って実は…

下北半島にあるむつ市は日本で最初、かつ現時点で日本最北
端のひらがな表記の市なのですが、実はこの名前になる時に
色々なお話があります。そもそもこの地は昭和34年に大湊町
と田名部町という2町の合併によって出来た街で、その結果最
初は「大湊田名部市」と呼ばれてました。ところが、この名前
が長い、となつて翌年の昭和35年に「場所のイメージがし易
い」「でも漢字だと少し堅い」となつて日本最初のひらがなの

市が誕生した、ということになってます。たった1年だけの漢
字5文字の名前、まあ確かに漢字5文字の日本の市って現在で
も1つ(山陽小野田市)しかないですね。住所を書類に書
いたりする事が多い役所の人たちも大変だったのかも(笑)

2:みんなも知ってるあの漢字が市のマーク?

日本の市には市章と云ういわゆる市のマークがあり、そのデ
ザインは千差万別で面白いものになっています。

ま、大概のものはデザイナーさんがその市の名前やイメージ
を組み込んで創作する、ってのがほとんどだと思いますが、先
月の巻末の問題で挙げた弘前市の市章は非常に珍しい物で、そ
れは漢字の「𠂔」をそのまま使ってます。

これは江戸時代以前にこの地を治めていた津軽氏の旗印に
なっていたもので弘前では明治33年(西暦1900年)からこ
ちらを使用しているとのことです。由緒正しいものですね。

これは余談ですが、こういう見たことあるデザインが市章に
なってるケースは静岡県熱海市(いわゆる温泉マーク→♨これ)
とか、ただの「〇」(群馬県前橋市)とかあったりします。面
白いですね。

青森・八戸という2大都市を放置してここまで書いてきてし
ましたが、まあいっか。つらつら書いてきたコラムもこの
辺りで。

今月もお付き合い頂きありがとうございました、では今月の
問題です。

問題:昨年3年ぶりに営業を再開し今年度も営業を行う事を公
式HPで発表した「五ヶ瀬ハイランドスキー場」が位置
する日本の県はどこでしょう?

(正解は29ページ)



アプリって割と簡単に作れるのです!



社内報アプリを 導入する企業続々!

近年、社内報をアプリで配信する企業増加中!
経営層からのメッセージや最新ニュース
などをリアルタイムで共有。
コメント機能やアンケート機能など、
デジタルが繋ぐ、広がるギズナ。

情報共有の
迅速化

ちょっと覗いて
みてください↓

データ分析による
効果測定

閲覧率・
読了率の向上
&
エンゲージメント
UP

待望の
新入社員
&後輩☆

導入事例
山梨県立総合技術センター導入
新商品ご案内やEC
サイトへの促進に
活用中!
Jaeger様へ導入
プッシュ通知で届ける、
繋がる。旬な情報!



地域活性化を促進 デジタルスタンプラリー!

手軽に参加!観光地や商業施設で、地域活
性化や集客促進に!スマホがあれば、いつ
でもどこでも簡単に参加できます。参加者数や
達成率などの効果測定もタイムリーにOK!

ちょっと覗いて
みてください↓

ついに
先着!!

オリジナルアプリ作成は 研美社にお任せを!

株式 研美社

(東京営業所) 東京都中央区八丁堀 2-20-9 八丁堀 FRONT 1F
(大阪本社) 大阪府都島区片町 1-5-13 大手前センチュリービル B1F/5F

03-6228-3900
06-6351-1766

ジャグラBB JaGra Broadband Contents Service

HOT NEWS

おすすめ番組情報

広報委員会
が選ぶ!

いますぐチェック!

ジャグラ BB | 検索

カテゴリ> 教育と技術 > DX・総務経理・その他

生成 AI 最前線 Vol.2 Photoshop2026の新機能

今回の第2弾では、Photoshop 2026の最新の生成 AI 機能をピックアップ! 外部パートナーエンジンを選択できるようになった「生成塗りつぶし」や動画生成機能をはじめとした、より直感的で効率的な画像編集を可能にする新機能を、具体的な活用事例を交えてご紹介します。印刷・デザイン業界におけるコンテンツ制作の新しい可能性を、ぜひ動画でご覧ください。



生成AIで簡単に
動画まで作れるにやんで...



study リスク対策をした上で便利なツールを使おう

カテゴリ> 教育と技術 > DX・総務経理・その他

Photoshop

背景に深度を加えるために、人物の背景をぼかしてください。



生成 AI 最前線 Vol.3

ChatGPT と Adobe 製品の連携

ChatGPT の対話インターフェースを通じて Photoshop や Acrobat などのプロ向けツールの一部機能が無料で利用可能になりました。本動画では、12月リリース直後の検証結果およびリスクと対策についてお届けします。



BTube への 映像データ募集中!

スマートフォンで
簡単投稿♪

投稿方法は
こちらから→



SPACE-21 広報部 2026年、馬には乗ってみよう人には添うてみよ

SPACE-21 代表幹事 小澤 孝一郎
(株式会社オズプリンティング)



「共立速記印刷の笹井と申します。SPACE-21 の次期代表幹事を私が務めることになりました。ついては小澤さんが私の次の代表幹事を担っていただけますか?」

2021年の12月だったと思います。

登録されていない電話番号から着信があり、電話に出たら、初めて話をするにも関わらず、笹井さんからそんなお話をいただいた。

「えっ」と言葉が出そうになりながらも、代表幹事からのオファーを重く受け止め、

「わかりました、SPACE-21 から離れて数年経ちますが、2年後に受けられる状態であつたらお受けいたします」そう答えました。

あれから4年が経ち、笹井代表幹事の後、2024年4月から本日まで代表幹事を務めております。

私が代表幹事になって最初に掲げたスローガンは「レボリューション! SPACE-21 組織大改革」でした。活動目標に「1. 組織体制再定義」「2. 青年支部拡大」「3. 会員への学びの機会提供」「4. 独自事業の構築」を設定しました。

「SPACE-21 ってなに? どんなことしているの?」とさんざん言われ続けていた SPACE-21 の組織体制を明確にしたい、という思いがありました。

ところで、SPACE-21 の代表幹事を務めるにあたって調べたパンフレットには「いもづる的な、情報力」というキャッチコピーのもと、ブロック協議会がありその下に各地青年部が所属するという組織図がありました。

これを見て、今は無きブロック協議会制度をベースに、今の状況に合わせた組織を構築しようと考えて副代表とともに案を作っていました。

そうして迎えた全国の幹事が集まる幹事会。ここで考えてきた草案を提案すると、強烈的な拒否反応がありました。まさに炎上というやつです。その会議(オンライン)にはたまたま岡本会長も参加してくれていまして、その状況を見ていました。

後日、岡本会長に呼ばれ「この間の会議、リーダーってのは自分がやりたいことをやるんじゃないんだよ、みんながやりたいことを形にするのがリーダーなんだよ」と言われました。私も一企業の社長として、さらに青年会議所では理事長や会長を務めてきた経験があつてそれなりにリーダーについてわかってはいたつもりでしたが、この岡本会長の助言は私にとって、価値観を変える重い言葉でした。

それから、改めて各地の青年部の活動、業界への想いを各幹事から聞くように心がけました。2024年の青森のリアル幹事会では各青年部の活動報告を設けました。その結果、松谷副代表に広報担当を担ってもらい、Facebook に各地青年部の活動を掲載する広報活動を展開することにしました。今後さらに SPACE-21 の広報には力を入れていきたいと思っています。幸い、次期代表幹事は松谷副代表に内定していますので、その路線を引き継いでいってみたいと思っています。

代表幹事を引き受けて1年半、様々な取り組みを進めてきましたが、特に感じるのは岡本会長からの言葉に表される「声を聞くことの大切さ」です。メンバーの声に耳を傾け、自らの考えとすり合わせながら決断を下していくことがリーダーシップなのだと思います。そしてその経験を経ることができるのが、SPACE-21 の意義であるのでしょう。

業界のリーダーを育てる経験を積み重ねることができ SPACE-21 への引き続きの応援をお願いいたします。



ジャグラ

鹿児島で地協セミナー開く
ジャグラコンパスを学ぶ
九州地協

2025年7月26日(土)、鹿児島市のホテルタイセイアネックスで地域活性化委員会委員長の齋藤秀勝氏を講師に「ジャグラコンパス 避難場所マップ」と題した九地協セミナーを、大分・熊本・鹿児島の各県支部ジャグラ会員を含めた17名の参加者で開催しました。

齋藤委員長には、分かりやすい資料やプロジェクターを使い、ジャグラコンパスの概要を紹介いただきました。質疑応答も活発な質問が飛び交い、「ジャグラコンパス」の必要性や利用価値を再確認できました。

セミナーに続き、鹿児島県支部恒例の暑気払いが行われ、土慶一郎九州地協会長による歓迎の挨拶と乾杯のあと、交流と親

睦を深めました。最後は池邊大分県副支部長による中締めで閉会となりました。

待望の「ジャグラコンパス セーフティマップ」の紹介をできたことで、地協としても新たな仲間を増やすための足がかりができました。

講演する
齋藤委員長

九州地協セミナーの様子

一般社団法人
日本グラフィックサービス工業会

JaGraグループ保険制度

災害保障特約付・災害割増特約付団体定期保険

◆ 割安な価格で充実の福利厚生

(例：30歳男性、1口327円/月)

◆ 70歳まで加入可能

◆ 死亡以外に事故による入院も保障

◆ 医師の診査不要、告知のみで申込

2025年
ジャグラ全国協議会
レポートジャグラの未来を懸けた
「次世代へつなぐ会員拡大」

11月7日、8日の2日間、東京・両国のKFCホールで「2025年ジャグラ全国協議会」が開催されました。

初日は「会員拡大」、2日目は「コンパクトDXの実践」をテーマに、全国から理事・支部長が参集し、今後の活動方針について協議が行われました。

後藤 卓也 副会長
(座長)

開会挨拶



岡本 泰 会長

冒頭、挨拶に立った岡本泰会長は、DX推進などの本部事業が進展する一方で、組織としての会員減少という課題に対し、「ジャグラという組織を次世代につないでいくためには、会員拡大による基盤強化が不可欠であり、その鍵を握るのはここにいる理事・支部長の皆さんである」と述べ、各地域のリーダーとしての役割の重要性を強調しました。

また、「ボランティア活動だからこそ、互いに情熱と目的意識を持って取り組みたい。皆さんと共に、前向きに会員拡大に挑戦していきたい」と呼びかけ、全員が一体となって課題に取り組むよう要請。本協議会の成果として、精神

論にとどまらず、各地協で具体的な数値目標と行動計画(いつ、どこで、何をするか)を策定し、確実に実行に移すよう求めました。

マスターズクラブ PR



沖 敬三 相談役

続いて沖敬三相談役が登壇し、世代交代で社長職を退いた会員やジャグラ元役員など60歳以上のOBを対象とした「マスターズクラブ」について説明。組織の結束には経験豊富な先輩方の力も大きな支えになるとし、会費無料で参加できる同クラブへの加入を呼びかけました。



テーマ発表

一日目スケジュール

初日は「会員拡大」をテーマに、新入会員3名によるパネルディスカッション、2年連続会員増強支部長の取り組み発表に続き、地協ごとに分かれて、グループディスカッションが行われました。



原田 大輔 副会長

パネルディスカッション

新入会員に聞く

「何故、ジャグラに入会したのか」

「新入会員パネルディスカッション」では、入会のきっかけや動機について、会員拡大特別委員会副委員長を務め、現在常設の会員拡大委員会の松下忠委員（和歌山）をモデレーターに、3名の新入会員に話を聞きました。



●村田 裕樹 氏（神奈川／㈱シュービ）

創業して日が浅く横のつながりを求めている際、仕事でお世話になっていた製本会社の社長がジャグラで精力的に活動されているのを見て、「この人が本腰を入れている団体なら間違いない」と信頼して入会を決めた。入会後に参加したイベントで、会員一人ひとりが熱意を持って運営している姿に感銘を受けた。



●塚田 謙太 氏（東京・港／日本新聞印刷㈱）

page 展で稲満支部長に声をかけられたのがきっかけ。その後、釣りのイベントなどに参加し、右も左も分からない自分を温かく迎え入れてくれる「楽しさ」に惹かれた。先輩経営者からは経営の学びを、同世代の青年部からは刺激を受けており、前向きなコミュニティだと感じている。



●高山 正 氏（愛知／IB ミヤザワ㈱）

古紙回収・産廃業という異業種であるが、青年部（愛青会）での活動を通じて、関連企業との出会いが仕事につながっている。入会の最大の決め手は、岡本会長の業界に対する熱い思いやカリスマ性に魅了されたことであり、変化しようとする熱意ある仲間の存在が大きい。



——会員拡大へのアドバイスは？

村田氏：正直なところ、経営者も社員も現場が忙しくて、なかなか会合に出る時間が取れないのが実情です。会社を抜けてここに来るための『言い訳』が必要なんです。例えば『ここに来れば補助金の情報が手に入る』とか『これだけの利益につながる』といった、数字で見える具体的なメリットを提示していただくと、社内も説得しやすいですし、参加のハードルがグッと下がると思います。

塚田氏：僕の場合は『楽しさ』が入り口でした。港支部のように、仕事の話ばかりでなく、ざっくばらんに話せて、自分の伸びしろに気づかせてもらえる、そういう前向きで明るいコミュニティなんだと伝えるのがいいんじゃないでしょうか。『ここに来れば楽しいし、成長できる』という場の空気感が伝われば、人は集まると思います。

高山氏：異業種の私にとっても、印刷業界がどう変化しているかを知ることは、自社のビジネスチャンスにつながります。業界の枠にとらわれず、広い視点で『変化に対応するための学びの場』であることをアピールすれば、響く層は必ずいるはずです。実際に私がそうでしたから。

事例発表

2年連続会員増達成支部による発表

パネルディスカッションに続き、直近5年間で2年連続会員純増を果たしている5支部の支部長より、具体的な取り組みが報告されました。各支部に共通していたのは、特別な奇策ではなく、地道な活動と「場の雰囲気作り」でした。



●東京・港支部 稲満 信祐 支部長



「実は私は何もしていない」と謙遜しつつも、週1回ペースで集まるなど、とにかく会員同士が顔を合わせる機会が多いのが特徴である。「楽しいから遊びにおいでよ」という軽いトーンでの勧誘が功を奏し、自然と人が集まる環境ができています。入会後すぐに役割を与えることで「巻き込む」手法も有効に機能していると報告した。

●東京・文京支部 笹井 靖夫 支部長



毎月何らかのイベントを開催し、接触回数を増やすことを重視している。東京グラフィックス青年部（FACE）とも密に連携し、飲み会を含めた交流の中で人柄を知り、信頼関係を築くことで入会につながっている。



●和歌山県支部 松下 忠 支部長



「しつこく良さを伝えること」を実践している。また、支部独自の会費を徴収せず実費のみの運営としている点や、近畿地協で開催される質の高い勉強会に参加できるメリットを強調し、既存の印刷工業組合の集まりなどの場を活用して勧誘している。

●兵庫県支部 作本 卓也 支部長



飲み会だけでなく「勉強会」の開催を重視し、持ち帰れるメリットを用意している。また、地域活性化委員会の「ジャグラコンパス」をドアノックツールとして活用し、飛び込み営業を実施。「防災」を切り口にすることで企業の総務担当者と話ができて、そこからジャグラの紹介につながるといった実践的な手法で成果を上げている。

●福島県支部 伊東 邦彦 支部長

関連業者への徹底した声かけを実施している。特徴的なのは、ジャグラの行事に家族同伴を推奨し、交通費補助を出すなどして、家族の理解を得ながら活動を続けてもらう工夫を行っている点である。

グループディスカッション

会員拡大に向けた具体的アクションプラン

90分間にわたる「テーブルディスカッション」では、全国10の地域ごとに「会員拡大」をテーマに、模造紙を囲んで白熱した議論が交わされました。ディスカッション後には各地域の実情に即した課題と、それを乗り越えるための具体的なアクションプランが発表されました。（詳細は次号）

ジャグラ年賀状デザインコンテスト

協議会終了後、恒例の「2026 年午年 第 13 回ジャグラ年賀状デザインコンテスト」の表彰式が執り行われました。

今回は、カラー部門 231 点、モノクロ部門 44 点、総数 45 社 275 点の応募があった。

表彰式では、年賀状デザインコンテストの樋貝委員長の司会で各部門の最優秀賞受賞企業に賞状と副賞が贈られました。



樋貝 浩久 委員長

最優秀賞 受賞企業

〈カラー部門〉

●株式会社アルファ（神奈川県支部）

安藤 万奈美 様コメント



「この度は最優秀賞をいただき、大変光栄に思っております。今回の作品は、新年を良い駆け出しでスタートを切れるようお願いを込めて作りました。馬が駆け抜ける疾走感を漢字の馬でうまく表現できたのではないかと思います。」

これからより良い作品を作っていけるよう励んでいきたいと思ひます。」

〈モノクロ部門〉

●株式会社ニシキコネクト（広島県支部）

水間 隆治 様（代理 宮崎 真 社長）コメント



「選んでいただいてありがとうございます。実は私が作ったわけではなく、障がいのある社員が作ってくれました。自分のできることを一生懸命してくれて、その成果が今日の受賞につながりました。本人も大変喜んでいました。」

各社の社員さんにも、励みになると思ひますので、このコンテストに応募してもらえればと思います。」



ジャグラ文化典・大阪大会 PR

続いて、2026 年に開催される「ジャグラ文化典 大阪大会」の PR が行われた。登壇した岡達也副会長と木原庸裕実行委員長が、次期開催地である大阪大会への参加を呼びかけました。

木原実行委員長は大会の抱負として、「大阪ならではの活力と、新しい時代の印刷文化を感じられる大会にする」と述べ、全国の会員に向けて「ぜひ大阪の地で会いましょう」と結びました。



木原 庸裕 大阪大会 実行委員長

日本プリンティングアカデミー PR

最後に、業界の人材育成を担う日本プリンティングアカデミー（JPA）からの PR が行われました。前田太樹氏が登壇し、現在の学校の活動状況や教育プログラムについて紹介。業界全体での人材育成の重要性を訴えるとともに、会員企業への継続的な支援と協力を呼びかけました。



JPA 前田様

閉会挨拶

閉会の挨拶に立った森孝副会長は、「長い時間皆様と一緒に過ごし、会員拡大を含め、大変有意義な一日だった」と協議会を総括、初日の幕を閉じました。



森 孝 副会長



会場に令和6年度ジャグラ作品展入賞作品を展示

サステイナ酒場

サステイナブル委員会

zoom

「今宵のサステイナ酒場」 「店主のつぶやき」



杉本店長

夜の静寂に包まれた頃、路地裏の小さな酒場にまた一つ、灯りがともる。古い木の扉を開けると、そこには馴染みの顔ぶれと、どこか懐かしい空気が漂っている。こころは、持続可能な未来（サステイナブル）を模索する経営者たちが、肩書きを脱ぎ捨てて本音を語り合う隠れ家だ。今夜は少し趣向を変え、煌びやかな衣装をまとったゲストが到着しているようだ……。

『余興』から生まれた本気 ～モノマネと自費出版が紡ぐサステイナビリティ～

今宵の肴（ゲスト）：

リーブル出版 代表取締役 坂本 圭一郎 氏

店主…「おや、今夜はまた一段と賑やかになりそうだな！まるでテレビの向こう側から飛び出してきたような華やかさだ。高知から来てくれたゲストの坂本さん、その格好は……まさかあの御所歌手かい？酔いが回る前に、その真意を聞かせてもらおうか」

坂本さん…「ははは、驚かせちゃったかな。これは僕の分身、『坂本アッコ』だよ。最初は取引先の宴会会で始めたんだけど、気づけばこれが名刺代わりになっちゃってさ。自分をさらけ出すことで、お客さんも心を開いてくれるんだよ」

常連客A…「すごいインパクトだなあ。でも、印刷会社の社長がなんでまた？」

坂本さん…「昔は自分らしく振る舞えずに悩んだ時期もあったんだ。でも、ある時『お客さんにとって何が一番いいかを考えるのが仕事だ』って気づいてさ。それから、人を喜ばせるためなら何でもやるようになったよ。仕事もモノマネも、根っこは一緒なんだよね」

常連客B…「なるほど。そのサービス精神が、会社の事業にもつながっているわけだね」

坂本さん…「そうなんだよ。うちは元々普通の印刷会社だったんだけど、電子入札なんかで仕事が減る中で、『自費出版』に活路を見出したんだ。ただ本を作るだけでなく、自分史や絵本を通じて、著者の想いや地域の魅力を発信することに力を入れたんだよ」

常連客A…「印刷業から出版社への転換か。簡単なことじゃないよね」

坂本さん…「うん。大手に価格じゃ勝てないからさ、『出版社としての付加価値』をつけることにこだわったんだ。少しの手間や工夫で、価格競争に巻き込まれない独自の立ち位置を築こうと思ってね」

常連客B…「そこで面白いのが、印刷という本業とは一見関係ない『無駄な遺伝子』の話だね。坂本さんのモノマネもそうだけど、一見無駄に見えるものが、環境が変わった時に生き残る武器になる。生物の進化と同じだよ」

坂本さん…「無駄な遺伝子……いい言葉だね。実際、絵本事業から派生して、今は動画制作や店舗デザインなんかもやってるし。一周回って何でも屋に戻った感じもするけどね（笑）」

店主…「だが坂本さん、きれいな話だけじゃないだろう？社会貢献や社員の幸せを掲げつつ、実際に利益を出し続けるのは並大抵のことじゃないはずだ」

月刊『グラフィックサービス』890号

■発行日 令和8年1月10日（毎月1回）
■発行人 岡本 泰
■編集人 本村 豪経
■発行所 一般社団法人 日本グラフィックサービス工業会 略称ジャグラ
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町7-16
電話 03-3667-2271 ファクス 03-3661-9006
ウェブ <https://www.jagra.or.jp/>



ジャグラは一般財団法人日本情報
経済社会推進協会指定のプライバシー
マーク指定審査機関です

■編集部宛メール edit@jagra.or.jp

◎企画：ジャグラ広報委員会

担当理事

神山 明彦 愛知・㈱カミヤマ / 副会長

委員長

本村 豪経 福岡・アイメディア㈱ / 理事
委 員

東海林正豊 秋田 / ㈱東海林印刷
谷山 和也 東京 / 菁文堂㈱
野口 聡 東京 / ㈱アクティブ
小澤孝一郎 山梨 / ㈱オズプリンティング
安達 睦男 大分 / ㈱舞鶴孔版
瀬尾 淳 広島 / ㈱広瀬印刷
三宮 健司 高知 / ㈱三宮印刷
佐藤 愛子 大分 / ㈱クリエイツ.
西谷 毅 東京・文京 / 西谷印刷㈱
松谷 勝広 東京・文京 / ㈱松谷メールサービス
笹井 靖夫 東京・文京 / 共立速記印刷㈱
田中 良平 専務理事

◎原稿・編集・校正

田中 良平 阿部奈津子 今田 豪
長野未奈美 古田 理子 笠原賢一郎
以上、ジャグラ事務局

◎渉外 田中 良平
◎広告 田中 良平
◎Web 阿部奈津子
◎動画 今田 豪

◎組版 ㈱クリエイツ. (大分県支部)

DTP = Adobe CC ほか
フォント = モリサワ OTF / モリサワ BIZ+ ほか



※本誌の一部にユニバーサルデザインフォント
を使用しています

◎製版 / 印刷 (㈱西村謄写堂 (高知県支部))

RIP = FUJIFILM WORKFLOW xmf
CTP = Luxel T-6300 (自現：富士フィルム XP-1310R)
刷 版 = FUJIFILM SURERIA XP-F
印刷機 = RYOBI 924D
インキ = 東洋インキ
用 紙 = 三菱ニューVマットA判 57.5kg

Copyright 2026 JaGra
禁無断引用

※本誌記載の製品名は一般に各メーカーの登録商標です
原則、TMや®マークは省略しています
※乱丁 / 落丁本はお取り替えいたします

【雑学コラムお題の答え】 宮崎県

2025年12月の事務局日誌

- 1日 ジャグラショートカット委員会 (Web会議)
3日 正副会長会議 (Web会議) MIS研究委員会 (Web会議)
4日 広報委員会 (Web会議) Pマーク現地審査 (静岡) →田中専務
5日 Pマーク現地審査 (秋田) →田中専務
9日 Pマーク現地審査 (埼玉) →今田、笠原
10日 「page2026」記者発表→笠原 ジャグラコンテスト委員会 (Web会議)
10日～13日 キャレオス フォーラム→岡副会長、田中専務
15日 サスティナブル委員会 (Web会議)
17日 Pマーク審査会・個人情報保護委員会 (本部)
18日 生産性向上委員会 (Web会議) 地域活性化委員会 (Web会議)
70周年誌編集委員会 (Web会議)
22日 会員拡大委員会 (Web会議)
23日 業態進化委員会 (Web会議)

1月のスケジュール

- 7日 理事会 (Web会議) 日印産連新年交歓会 (オークラ東京)
8日 広報委員会 (Web会議)
13日 Pマーク現地審査 (鹿児島) →今田
14日 Pマーク現地審査 (鹿児島) →今田
15日 環境表彰制度検討WG (印刷会館) →田中専務
日印機工年始会 (東京プリンスホテル) →田中専務
茨城支部新年会→尾形副会長、田中専務 Pマーク現地審査 (山梨) →今田
OGS新年互例会→岡本会長
16日 東京イノベーション発信交流会→齋藤理事、田中専務
岩手県支部新年会→岡本会長
19日 東グラ新春賀詞交歓会→岡本会長、田中専務
20日 会員拡大委員会 (本部)
21日 Pマーク現地審査 (高知) →田中専務 ジャグラコンテスト委員会 (Web会議)
秋田県支部新年会→岡本会長
22日 Pマーク現地審査 (高知) →田中専務
23日 作品展委員会 (Web会議) 神奈川県支部賀詞交歓会→田中専務
26日 愛知県支部新年会→岡本会長
28日 Pマーク審査会・個人情報保護委員会 (本部)
産連ステコミ (印刷会館) →岡本会長、田中専務
29日 地域活性化委員会 (Web会議)
30日 Pマーク現地審査 (東京) →今田 サスティナブル委員会 (栃木)

2月のスケジュール

- 3日 Pマーク現地審査 (神奈川) →今田 GP部会 (Web会議) →田中専務
6日 広報委員会 (Web会議)
7日～8日 北陸地協総会・新年会 (石川) →田中専務
9日 日印機協情報交流会 (出版クラブ) →田中専務
13日 産連環境自主行動計画WG (Web会議) →田中専務
17日 委員長会議 (Web会議)
18日～20日 page2026
20日 SPACE-21 全国交流キャラバン (山梨) →笠原
25日 生産性向上・MIS研究合同委員会 (本部)

事・務・局・便・り

新年あけましておめでとうございます。

皆様、新年いかがお過ごしでしょうか。私にとって昨年は、47歳での新しい環境への挑戦という、大きな人生の転機でした。毎日が手探りでしたが、毎日が勉強の日々でした。そして、今までいかに自分が経験値に頼って仕事をしていたか、痛感した1年でした。

東京大会や全国協議会といった行事を通じて、多くの会員の皆様に直接お会いすることができました。実際にお会いしてお話が出来たことは、私にとって大きな糧となっております。

2026年は午年。私も年男ということで、節目を感じる一年になりそうです。馬のようなスピード感は難しいかもしれませんが、一歩一歩着実に、事務局の業務に努めてまいります。本年もどうぞよろしくお願いいたします。(笠原)

※「事務局便り」は本部事務局員が交替で執筆しています

坂本さん：「……痛いところを突くねえ。正直に言えば、ここ2年ほどボーンナスは

出せてないんだ。理想と現実の狭間で揺れてるよ。でも、社員には『自分たちが会社を良くしていくんだ』っていう意識が芽生えてきてる。今はそれが希望かな」

常連客A：「格好つけずに今の苦しさも話してくれるところが、逆に信頼できるなあ」

坂本さん：「そうなんだよ。でもね、利益が全てじゃないって言っても、やっぱり会社が存続しないと社員も幸せにできない。だから、僕らがやっている地域との活動や自費出版って、実は『文化的な貯金』だと思ってる。今は目先の利益にならなくても、いつか高知の文化として根付いて、信用という形で会社に戻ってくるはずなんだ」

常連客B：「そうか、『文化的な貯金』か。いい言葉だ。それが未来のサスティナビリティにつながるんだね」

坂本さん：「結局、僕はお客さんと一緒に楽しみたいだけなのかもしれないな。泥臭くても、人と人のつながりを大切にしてさ。これから高知らしく、明るくやっていくよー」

全員：「その心意気に、乾杯ー」

店主：「坂本さんの話は本当に熱かったな。ただ、一つ引っかかるところがあるんだよ。理念の追求と、会社を存続させるための利益の追求。この『矛盾』こそが、サスティナブル経営の一番難しいところなんじゃねえか？」
常連客B：「まったく同感だよ。きれいにだけじゃ会社は続かない。企業の一歩の社会貢献は『納税』だよ。顧客満足を通じて正当な対価をもらい、社員に還元し、利益の一部を国や地域社会に納める。この経済合理性のサイクルこそが、企業の究極的なサスティナビリティだろう」

坂本さん：「うーん、痛いけど真実だ。納税の大事さは身に染みてる。でも、それだけと心が続かないんだよね」

常連客A：「さっき出た『無駄な遺伝子』の話だけど、まさに坂本さんの『モノマネ』や『自費出版』がそれだよ。環境が変化した時に、その『無駄』が一気に生存競争の武器になる。経営のサスティナビリティって、事業承継の

覚悟も含めて、この多様性にかかっているんだよ。生き残るためにどれだけの多くの『無駄』を仕込むか、それが本質的なサスティナブル戦略だと思っ」

店主：「なるほど、多様性という視点。深く刺さるねえ。利益、多様性……。色々な角度から議論が出たが、ずっと静かにグラスを傾けていた、この商店街の副会長にも、そろそろ話を振ってみるか。副会長、今夜の坂本さんの話全体を通して、何か思うことがあったんじゃないか？」

商店街の副会長：「私も長年、経営に携わってきたが、坂本さんの話を聞いて思ったのは、原点に立ち返るということだ。『お客様に喜んでもらえて嬉しい』。この純粹な気持ち、我々はつい、経営の数字や理念といった大きな言葉で包んでしまい、忘れてしまいがちだ」

店主：「お客様に喜んでもらえて嬉しい」……。そうか、これだよ！これこそが全ての答えなんじゃないか？理念だけでも利益が出なきゃ続かないし、利益だけでも理念がなきゃ社員は疲弊する。だが、『お客様が喜ぶこと』に情熱を注ぎ、本質的な価値を提供したら、結果として多くの協力者と、その価値に対する正当な利益がついてくるんだ。」

常連客A：「間違いないね。喜びを提供し続けられ、企業は淘汰されず、存続する。」
店主：「そう！それこそが、究極のサスティナブル経営の姿なんじゃないか。喜びを創り出すこと。今夜、結論が出た気がするぜー」

全員：「最高の結論に、もう一度乾杯ー」

……………

店主：「今夜も深い話が聞けたな。『無駄』に見えることが、実は未来を生き抜く『種』になる。そして、究極のサスティナブル経営とは、『お客様の喜び』を追求する、シンプルで本質的な活動である、という結論に至ったわけだ。さて、サスティナブル酒場はこれにて一旦の区切り、閉店だ。今夜の熱を忘れずに、またどこかで会おうじゃないか！」



※この記事は実際のZOOM飲み会をもとに店主が多少脚色したものです。

RMGT-CSPI

ともに創る印刷の未来



RMGT-CSPIが
SDGs達成をアシスト



印刷会社のSDGs達成のためのソリューションを提案、具現化するRMGT-CSPI。
各分野の企業が連携し、お客さまに寄り添いながら課題を解決・サポートします。

